

第3版（誤）					第3版（正）					理由	主要箇所																																																											
修正No.	ページ	行または項目	記載内容	p	行または項目	修正案																																																																
No.01	12	表 軟らか度（S値）の判断基準	<p>表 軟らか度（S値）の判断基準値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>軟らか度 S値 (cm/drop)</th> <th>対応する山中式 土壤硬度 (mm)</th> <th>植栽基盤としての判定 根の浸入の可否</th> <th>硬さの表現</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.7以下</td> <td>27以上</td> <td>多くの根が侵入困難</td> <td>固結</td> <td>××</td> </tr> <tr> <td>0.7～1.0</td> <td>24～27</td> <td>根系発達に阻害あり</td> <td>硬い</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>1.0～1.5</td> <td>20～24</td> <td>根系発達阻害樹種あり</td> <td>締まった</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>1.5～4.0</td> <td>11～20</td> <td>根系発達に阻害なし</td> <td>軟らか</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4.0より大</td> <td>11以下</td> <td>〃（支持力低下、乾燥）</td> <td>膨軟過ぎ</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table>	軟らか度 S値 (cm/drop)	対応する山中式 土壤硬度 (mm)	植栽基盤としての判定 根の浸入の可否	硬さの表現	判定	0.7以下	27以上	多くの根が侵入困難	固結	××	0.7～1.0	24～27	根系発達に阻害あり	硬い	×	1.0～1.5	20～24	根系発達阻害樹種あり	締まった	△	1.5～4.0	11～20	根系発達に阻害なし	軟らか	○	4.0より大	11以下	〃（支持力低下、乾燥）	膨軟過ぎ	△	12	表 軟らか度（S値）の判断基準	<p>表 軟らか度（S値）の判定基準値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>軟らか度 S値 (cm/drop)</th> <th>対応する山中式 土壤硬度 (mm)</th> <th>植栽基盤としての判定 根の浸入の可否</th> <th>硬さの表現</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S値 ≦ 0.7</td> <td>27以上</td> <td>多くの根が侵入困難</td> <td>固結</td> <td>××</td> </tr> <tr> <td>0.7 < S値 ≦ 1.0</td> <td>24～27</td> <td>根系発達に阻害あり</td> <td>硬い</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>1.0 < S値 ≦ 1.5</td> <td>20～24</td> <td>根系発達阻害樹種あり</td> <td>締まった</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>1.5 < S値 ≦ 4.0</td> <td>11～20</td> <td>根系発達に阻害なし</td> <td>軟らか</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4.0 < S値</td> <td>11以下</td> <td>〃（支持力低下、乾燥）</td> <td>膨軟過ぎ</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table> <p>※本書では判定基準値の範囲が明確になるよう不等号を使用することを試みている。現場調査では測定結果に誤差が生じやすいため、実用的に判断する。</p>	軟らか度 S値 (cm/drop)	対応する山中式 土壤硬度 (mm)	植栽基盤としての判定 根の浸入の可否	硬さの表現	判定	S値 ≦ 0.7	27以上	多くの根が侵入困難	固結	××	0.7 < S値 ≦ 1.0	24～27	根系発達に阻害あり	硬い	×	1.0 < S値 ≦ 1.5	20～24	根系発達阻害樹種あり	締まった	△	1.5 < S値 ≦ 4.0	11～20	根系発達に阻害なし	軟らか	○	4.0 < S値	11以下	〃（支持力低下、乾燥）	膨軟過ぎ	△			軟らか度（S値）の判定基準値の範囲が明確になるよう不等号を使用	主
軟らか度 S値 (cm/drop)	対応する山中式 土壤硬度 (mm)	植栽基盤としての判定 根の浸入の可否	硬さの表現	判定																																																																		
0.7以下	27以上	多くの根が侵入困難	固結	××																																																																		
0.7～1.0	24～27	根系発達に阻害あり	硬い	×																																																																		
1.0～1.5	20～24	根系発達阻害樹種あり	締まった	△																																																																		
1.5～4.0	11～20	根系発達に阻害なし	軟らか	○																																																																		
4.0より大	11以下	〃（支持力低下、乾燥）	膨軟過ぎ	△																																																																		
軟らか度 S値 (cm/drop)	対応する山中式 土壤硬度 (mm)	植栽基盤としての判定 根の浸入の可否	硬さの表現	判定																																																																		
S値 ≦ 0.7	27以上	多くの根が侵入困難	固結	××																																																																		
0.7 < S値 ≦ 1.0	24～27	根系発達に阻害あり	硬い	×																																																																		
1.0 < S値 ≦ 1.5	20～24	根系発達阻害樹種あり	締まった	△																																																																		
1.5 < S値 ≦ 4.0	11～20	根系発達に阻害なし	軟らか	○																																																																		
4.0 < S値	11以下	〃（支持力低下、乾燥）	膨軟過ぎ	△																																																																		
No.02	12	4-5行目	0.7cm/drop以下の固結層が層厚5.0cm以上、あるいは1.0cm/drop以下の層厚が10.0cm以上連続した場合、固結による不良地盤とみなし、何らかの改良が必要となる。	12	4-5行目	1.0cm/drop以下の固結層が層厚10cm以上連続した場合、あるいは0.7cm/drop以下の固結層が層厚5cm以上連続した場合、固結による不良地盤と判定し、何らかの改良が必要となる。			1.0以下と0.7以下の例が重複していた。	主																																																												
No.03	17	表 最終減水能の判断基準	<p>表 最終減水能の判断基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最終減水能(mm/hr)</th> <th>減水速度換算 (cm/sec)</th> <th>植栽基盤としての判定</th> <th>予想される障害等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10以下</td> <td>2.8×10⁻⁴以下</td> <td>×</td> <td>不良 湿け枯れ</td> </tr> <tr> <td>10～30</td> <td>2.8×10⁻⁴～8.3×10⁻⁴</td> <td>△</td> <td>やや不良 枯れ枝等の湿害</td> </tr> <tr> <td>30～100</td> <td>8.3×10⁻⁴～2.8×10⁻³</td> <td>○</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>100以上</td> <td>2.8×10⁻³以上</td> <td>◎</td> <td>良好</td> </tr> </tbody> </table>	最終減水能(mm/hr)	減水速度換算 (cm/sec)	植栽基盤としての判定	予想される障害等	10以下	2.8×10 ⁻⁴ 以下	×	不良 湿け枯れ	10～30	2.8×10 ⁻⁴ ～8.3×10 ⁻⁴	△	やや不良 枯れ枝等の湿害	30～100	8.3×10 ⁻⁴ ～2.8×10 ⁻³	○	可	100以上	2.8×10 ⁻³ 以上	◎	良好	17	表 最終減水能の判断基準	<p>表 長谷川式簡易現場透水試験器による透水性の判定基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最終減水能(mm/hr)</th> <th>減水速度換算 (cm/sec)</th> <th>判定基準</th> <th>予想される障害等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最終減水能 ≦ 10</td> <td>2.8×10⁻⁴以下</td> <td>×</td> <td>不良 湿け枯れ</td> </tr> <tr> <td>10 < 最終減水能 < 30</td> <td>2.8×10⁻⁴～8.3×10⁻⁴</td> <td>△</td> <td>やや不良 枯れ枝等の湿害</td> </tr> <tr> <td>30 ≦ 最終減水能 < 100</td> <td>8.3×10⁻⁴～2.8×10⁻³</td> <td>○</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>100 ≦ 最終減水能</td> <td>2.8×10⁻³以上</td> <td>◎</td> <td>良好</td> </tr> </tbody> </table> <p>※本書では判定基準値の範囲が明確になるよう不等号を使用することを試みている。現場調査では測定結果に誤差が生じやすいため、実用的に判断する。</p> <p>出典：「緑を創る植栽基盤」ソフトサイエンス社 1998 を一部加筆</p>	最終減水能(mm/hr)	減水速度換算 (cm/sec)	判定基準	予想される障害等	最終減水能 ≦ 10	2.8×10 ⁻⁴ 以下	×	不良 湿け枯れ	10 < 最終減水能 < 30	2.8×10 ⁻⁴ ～8.3×10 ⁻⁴	△	やや不良 枯れ枝等の湿害	30 ≦ 最終減水能 < 100	8.3×10 ⁻⁴ ～2.8×10 ⁻³	○	可	100 ≦ 最終減水能	2.8×10 ⁻³ 以上	◎	良好			最終減水能の判定基準値の範囲が明確になるよう不等号を使用	主																				
最終減水能(mm/hr)	減水速度換算 (cm/sec)	植栽基盤としての判定	予想される障害等																																																																			
10以下	2.8×10 ⁻⁴ 以下	×	不良 湿け枯れ																																																																			
10～30	2.8×10 ⁻⁴ ～8.3×10 ⁻⁴	△	やや不良 枯れ枝等の湿害																																																																			
30～100	8.3×10 ⁻⁴ ～2.8×10 ⁻³	○	可																																																																			
100以上	2.8×10 ⁻³ 以上	◎	良好																																																																			
最終減水能(mm/hr)	減水速度換算 (cm/sec)	判定基準	予想される障害等																																																																			
最終減水能 ≦ 10	2.8×10 ⁻⁴ 以下	×	不良 湿け枯れ																																																																			
10 < 最終減水能 < 30	2.8×10 ⁻⁴ ～8.3×10 ⁻⁴	△	やや不良 枯れ枝等の湿害																																																																			
30 ≦ 最終減水能 < 100	8.3×10 ⁻⁴ ～2.8×10 ⁻³	○	可																																																																			
100 ≦ 最終減水能	2.8×10 ⁻³ 以上	◎	良好																																																																			
No.04	18	6-9行目	<p>■測定方法と特徴（ガラス電極法） 測定する土と水を1：2.5の比率（質量比）で測定液をつくり、よく攪拌する。 電極を懸濁した測定液に入れ、値が安定したところで計測する。 電極は測定のために水で洗浄すること。</p>	18	6-9行目	<p>■測定方法と特徴（ガラス電極法） 測定液は、測定する土（風乾土）と蒸留水（イオン交換水・精製水などを含む）を1：2.5の比率（質量比）で混ぜ、よく攪拌する。 電極を懸濁した測定液に入れ、値が安定したところで計測する。 電極は測定のために蒸留水（イオン交換水・精製水などを含む）で洗浄すること。</p>			正確な表現に変更																																																													
No.05	19	4-8行目	<p>■測定方法と特徴 測定する土と水を1：5の比率（質量比）で測定液をつくり、よく攪拌する。 電極を測定液に入れ、電極部分に泡がつかないようにして、値が安定したところで計測する。 電極はできるだけ上澄み部分で計測する。 電極は測定のために水で洗浄すること。</p>	19	4-8行目	<p>■測定方法と特徴 測定液は、測定する土（風乾土）と蒸留水（イオン交換水・精製水などを含む）を1：5の比率（質量比）で測定液をつくり、よく攪拌する。 電極を測定液に入れ、電極部分に泡がつかないようにして、値が安定したところで計測する。 電極はできるだけ上澄み部分で計測する。 電極は測定のために蒸留水（イオン交換水・精製水などを含む）で洗浄すること。</p>			正確な表現に変更																																																													
No.06	26.27	タイトル	長谷川式簡易現場透水試験 調査表	26.27	タイトル	長谷川式簡易現場透水試験 調査票			誤字																																																													
No.07	各所		水素イオン濃度	各所		水素イオン濃度指数			正しい表現に変更																																																													